

この図からの読みとり値とでは差があることは言うまでもない。そこでこの図がどの程度実測値と合うかを調べるために、第4図のように読みとり値と実測値とを両座標軸とした分布図を作つて見た。

この図によると、第3図によって計算した値も、従来の実験式にまさるともおとらないことが分る。

6. あとがき

以上の結果はいうまでもなく、東京、名古屋、大阪の各湾について求められたものであり、他の湾に適用することは慎重に検討しなければならない。

また有明海について、二例あたって見た結果を述べると昭和31年8月17日の台風第9号によるものはほぼ合ったが昭和2年9月13日の有名な有明海の高汐には全然適用できない。すなわちこの台風は速度が遅く25キロぐらいであつたのにもかかわらず汐位が高くなっているのであるが、その構造を見ると、小さい割合に風がつよく、中心付近の気圧傾度が大きくなっていた。つまり若い時期の台風であり、本洲の中、東部に來襲する衰弱期

* 台風の強さを中心気圧で表わしているが、これは、台風域内の気圧分布が等しいということ仮定して成り立つことであり、域内の気圧分布が異なるなら、強さが異なり風もまた当然異なるであろう。

に入った台風とは別に考慮しなければならないのであろうか*。

なお第4図を作るのに用いた実験式は次のようである。

$$\text{東京: } H=1.32\Delta P+0.16 W^2 \text{ (S 風, } \Delta P \text{ は mmHg)}$$

ただし D' の項は小さいので省く。

$$\text{名古屋: } H=1.6743\Delta P+0.16534 W^2 \cos\theta$$

(θ は風向と SSE のなす角)

$$\text{大阪: } H=1.36\Delta P\pm 0.48 (W \cos \theta)^2$$

(ΔP は mmHg, θ は SW~NE 線からの偏角)

$$\text{神戸: } H=2.3302 \Delta P + 0.09539 W^2 \cos \theta_1$$

$$+ 0.02395 W^2 \cos \theta_2$$

($\theta_1 = \text{SSW}$ と なす角, $\theta_2 = \text{WSW}$ と なす角)

(いずれも文献2より引用)

文 献

- 1) R.L. Wiegel, C.M., Snyder, and J.E., Williams(1958): Water Gravity Waves generated by a Moving Low Pressure Area, Trans. Amer. Geo. Un. Vol. 39, No. 2, 224~236.
- 2) 奥山熊一, 宇野木早苗 (1959): 日本沿岸における高汐の概況, 科学技術庁資源調査報告第9号, 高汐予報に関する報告, 25~48.

気 象 の 英 語 (21)

23. 比較の表現 (2)

12) no better than と not better than

これについても、no more than と not more than について云ったことがなり立つ。Not better では not は better を否定するので、“より良くない”つまり“わるいか同程度”であるが、no better の方は“良くなんかない=同程度”である。したがって

He is not better than a beggar.

＝彼のひどいことは乞食以下である。

He is no better than a beggar.

＝彼は乞食同然だ。

13) as much as ~

“as~as~, は同程度を表わすというように書かれているが、as と as の間に入る形容詞の意味によっては必ずしも同程度というだけではない。“as much as~”は、“~と同程度に多い”というので沢山という感じが強くなり、“no less than fifty”が“50 も (そんなに沢山)”というのと同様、“as much as 20%”は“20%

も (そんなに沢山)”となる。

The transfer of water from the oceanic reservoir through the narrow bottle-neck of the atmosphere to the polar ice sheets must be a very slow process, since at any one time the atmosphere contains only 10^{-5} of the water found in the ocean, while the present land ice sheets have locked up **as much as** 2% of the water contained in the oceans. (H. Wexler)

＝現在陸地にある氷床は海洋にある水の2%にもあたるのに、大気中の水は、どんな時でも海洋にある水のわずか 10^{-5} にすぎないから、海洋という貯水池から隘路である大気を通して極の氷床に行く水の輸送はきわめておそい過程であるに違いない。(bottle-neck は文字どおり、ピンの口で、通路が細くなって隘路になっている所である。ここでは、水が海洋から大気を通して極の氷になるという経路で、大気は非常にわずかの水しか含めないから、大気が bottle-neck になっているわけである。)